

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703667		
法人名	有限会社精祥		
事業所名	グループホームのぞみ れんげ草		
所在地	福岡県北九州市八幡西区陣原3丁目25-1		
自己評価作成日	平成29年12月7日	評価結果確定日	平成30年1月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成29年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、様々なレクリエーションを行っています。天気の良い日は近隣の公園へ出掛けたり、季節毎にチューリップやヒマワリ等を鑑賞しています。中庭や駐車場横の花壇に花や野菜を植えて、入居者と共に育てています。
地域の祭りや市民センターで開催されている音楽会に参加しています。
筋力の低下予防の為に、施設内や外を出来るだけ歩く様にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所12年目になり、朝の申し送りや毎月の会議で入居者の状態を共有しながら、理念の「笑顔で楽しく地域と共に暮らせる家づくり」に努めている。不穏になる入居者も対応する職員が変わると落ち着いたり、脳梗塞を発症し緊急入院した入居者は、職員の早急な対応で後遺症が軽いなど、日々チームケアを実践している。管理者は日頃から職員と同じ目線で関わり、ホームの雰囲気が良いとハローワークや派遣で見学や就労後に入職した職員もあり、多様な委員会に関わりながら和気藹々と就労している。回覧板や老人会会報が届き、地域公民館行事や地域防災訓練に参加し、清涼祭やボランティアによる音楽療法が継続され、地域保育園児の来訪などで入居者が笑顔になる機会も多い。運営推進会議は日頃の暮らしを見ていただきたいと共用空間で開催され、今後も域密着型サービスの拠点づくりが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームのぞみれんげ草**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で理念の唱和を行い、職員に理念が浸透する様にしている。	玄関の壁に法人理念、グループホーム理念、職員心得、月間目標を掲示している。開所12年目になり、入居者の心身の状況に配慮しながら、理念の笑顔で楽しく地域と共に暮らせる家づくりに全職員で努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、近隣の公園の清掃を一緒に行っている。また清涼祭に地域の方を招き、踊り等を披露して頂いている。公民館のイベントに参加して、地域との交流を深めている。	地域の回覧板や老人会会報が届き、地域公民館での演奏会や落語会に参加したり、恒例になった清涼祭には婦人会の踊りが披露されている。ボランティアによる音楽療法も継続され、地域保育園から園児の来訪で、笑顔になる入居者も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居や介護に関する相談に関していつでも受けられる様に、地域で何か出来る事はないかを運営推進会議を通じて話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に参加して頂き、2ヶ月に1度開催している。家族の参加を呼び掛けてはいるが、中々都合が合わず、参加出来ない。入居者も毎回3人程度参加して、声を掛けて頂いている。	日頃の暮らしをみていただきたいと共用空間で開催され、次回会議から家族が参加予定である。参加者から、介護保険制度が難しいとの意見があり、地域包括支援センター職員が老人会で講話している。会議録は玄関や玄関壁に公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事例はないが、何か困ったことがあった時は地域包括支援センターに連絡をする様にしている。また運営推進会議に参加して頂き、情報交換を行っている。	毎月、居室情報を地域包括支援センターに報告している。入居には至らなかったが、他の施設に入居している方の不安について相談を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない様に、代替案がないか常に考えてケアを行っている。夜間は玄関の施錠を行っているが日中は、施錠していない。	家族に説明し、了解を得てセンサーマットを使用している。階上の系列事業所とともに身体拘束委員会を発足し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。言葉遣いについては、その都度指導しているが、連絡ノートでも周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に結び付きそうな事案が無いかを考えて、言葉遣いや接遇面で注意が必要な場合は、すぐに対象の職員と話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者で成年後見制度を利用している方がいる為、職員にどのような制度なのかを理解して貰える様にしている。会議時間の中で説明をしている。	日常生活支援事業の利用者があり、生活支援員が月1回来訪している。日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを整備し、職員に内容やその違いを会議で周知している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書の内容を順を追って説明をしており、不明な点や疑問点があれば、すぐに返答をする様にしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や御家族から要望や意見があった場合は、すぐに対応するように心がけている。苦情に関しては発生した場合、書類にまとめ報告をして、苦情委員会で対策を考えている。	定期的に入居者の笑顔満載のホーム便りを発行し、家族が意見を表出する機会を設けている。清涼祭を全家族に案内し、今年は3家族が参加している。毎週来訪する家族もあり、日頃の暮らしぶりを報告している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回スタッフ会議を開催して、その中で提案について議論している。また日々職員の話聞きながら、意見を取り入れる様に心掛けている。	管理者は日頃から職員と同じ目線で関わり、毎月開催されている2ユニット合同の会議では、率直な意見交換が行われている。日々必要な洗濯機や電磁調理台が買い替えられ、階上の系列施設職員と、学習、衛生、レクリエーション、防災、研修、接遇などの委員会に属し、意見交換しながら活動している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を取り入れ、半年に一度面談を行い、目標が達成できたかを評価している。勤務面については冠婚葬祭、家族の予定など急な事にも対応する様に心掛けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集の際は、性別、年齢、経験で選ばずに、求職者の面接の際の人柄や性格に基づき判断を行っている。職員については、資格取得や研修の参加の希望があれば、積極的に参加出来る様にしている。	20歳代～60歳代と年齢に幅のある男女の職員が就労している。再就職もあるが、ホームの雰囲気が良いとハローワークや派遣で見学や就労後に入職した職員もある。階上の系列施設への異動もあるが、ホームで戻ってきた職員もいる。個々の経験やスキルに応じた研修もあり、介護福祉士を目指して受験する職員もあり、生き生きと働ける環境を整備している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者や御家族に対する人権を守る為、朝礼や終礼で話しをしている。	日頃から言葉遣いに配慮し、接遇委員会から提案された職員の言葉遣いや身なりに関する目標が、玄関の壁に掲示されている。	介護職員の人権研修受講は必須であるため、研修委員会で計画の立案や開催を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修やリーダー研修等、グループ施設で毎年開催している。外部研修も施設負担で受講後に伝達研修を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループ内での定期的な研修、会議等を行い意見交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際は事前訪問や体験入居を行って、本人にどういう所なのかを理解して頂ける様に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が不安に思う事や不明な点については、事前に説明を行い、納得された上でサービスの利用を開始出来る様に心掛けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問を行い、本人とご家族の状況を見極めたり、入居前のケアマネ等から情報提供を受けている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設見学や体験入居をして頂き、職員や施設内の雰囲気を体験して頂き、検討している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いや気持ちを聞き、連携と協力をし支えて行く関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の知り合いの方が時折面会に来ている。もし、馴染みの場所に行きたいと希望がある場合は、体調や家族の希望なども考えて対応したいと考えている。	毎月自宅に一泊したり、家族と病院受診や外食する入居者もある。伴侶の面会時が一番笑顔になる入居者もあり、関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニケーションが円滑に取れる様に、職員が入り支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族と連絡をとり、現在の状況を確認したり、面会に行っている。退去時に何か困った事があればいつでも連絡を下さいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを実施して、本人とご家族の希望や思いを出来るだけ把握する様に心掛けている。	アセスメントシートを整備し、把握した入居者の思いや意向を共有している。自分の意図が通らない時に不穏になる入居者も対応する職員が変わると落ち着くことや、伴侶の来訪時に一番笑顔が見られることを全職員が理解しながら、さらなる意向や思いの把握に努めている。	整備したアセスメントシートに印字の色を変えて再アセスメント結果を加筆するなどの工夫で、さらなる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用して、職員間で共有し、ケアが統一出来る様に心掛けている。また細かな変更もノートに書き、皆で共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の行動に変化があれば、ケアの方法を考えて対応している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時に、入居者、御家族、担当職員から意見を聞き取りいれている。	朝の申し送りや毎月の会議で入居者の状態を全職員で共有しながら、入居者の心身の状況に応じた介護計画の作成や見直しをしている。1日の中で穏やかな時間を見極め、共有空間でおやつを食べてもらったり、不穏時は対応する職員を変えるなどの工夫をしている。	介護度の重い入居者も多いことから、理念に謳った笑顔で楽しく過ごすことを目標にした介護計画の立案や実践を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況とケアプランの計画実行の有無に関して経過記録に記入している。情報の共有についてはノートを作成し、気付いた事を記入して共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在の体制や制度の中で対応ができない事案については他に代替案がないか検討していく。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事へ参加したり、地域の方へ施設の行事の際に参加して頂く様に声を掛けている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者御家族の希望を優先しているが、なければ提携医を紹介している。	入居前のかかりつけ医に家族と受診したり、協力医療機関で定期的に健康管理を受ける入居者もあり、適切な医療を受けられるように支援している。脳梗塞を発症し緊急入院した入居者があるが、気づいた職員が早急に医療機関に連絡したため、後遺症は軽かった。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが、以上があればすぐにかかりつけ医に相談し、対応に対しての指示を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や、退院時のカンファレンスを行っている。それ以外にも定期的に面会に行き、状況の把握に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要になった入居者は受け入れが出来ないが、出来る限りかかりつけ医と連携して対応している。また御家族にも、現在の状況を踏まえ、今後の事等を話している。	重度化や終末期に向けた方針を整備している。階上の系列施設は看護師が常駐し、看取りを支援しているが、ホームは職員体制がないため、状況に応じた支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や救急対応の練習を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、施設での避難訓練を行い、地域の防災訓練にも参加している。	今年3月、入居者と隣接する公園や他の指定避難場所に徒歩や車イスで避難し時間を計測したり、バケツリレーで消火するなどの地域防災訓練に参加している。12月は階上の系列施設と合同で避難訓練を実施したり、火の用心と声かけながら地域パトロールに参加予定である。	備蓄台帳の整備で、備蓄の種類や消費期限を把握され、緊急避難所として地域に貢献されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに関しては、常に注意喚起を行い、乱れていればすぐに指導するように心掛けている。	入居者にとって〇〇ちゃんが心地よい呼称の場合は実践し、入居者の心身の状況に応じた対応に努めている。調査日、昼食のご飯をもっと柔らかくと希望する入居者もあり、管理者が丁寧に対応していた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かしたいと希望を訴える事の出来ない入居者の方も、日々の介護の中で興味がありそうな事や、御家族からの話の中で、ヒントになる事がないか考えている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者がしたい事があれば、出来る事は優先して行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は、入居者の希望がないか確認している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付け等は職員が行っている。食べたいものがある時は希望を聞いて反映させている。	調理委員のアンケートや、お茶の時間に入居者から希望を聞きながら献立を作っている。彩りや器で盛り付けを工夫し、嚥下状態に合わせてトロミ食や刻み食の提供をしている。見守りや介助の有無でテーブルを分け、入居者が其々のペースで食事ができるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量については、毎食後に確認している。入居者の体格や食事量に合わせ、提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者に合わせ、時間で統一せずトイレ介助を行っている。	入居時は、座位ができず2人の職員でトイレでの排泄を介助していた入居者が、座位バランスや立立訓練の成果で、職員1人の介助で排泄できるようになっている。尿取りパットを使用する際は、まずストックの大小の尿取りパットを試用し、家族の経済的な負担に配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を活用して、かかりつけ医と相談しながら適切な排便が出来る様にしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日と時間は決まっているが、日々の体調に合わせて支援している。	季節感のある柚子湯や、薬湯のとそ湯などを楽しんでいる。更衣室に暖房機を設置し、ヒートショックを防止している。広い清潔な個浴槽が設置され、週3回の入浴を支援しているが、入浴を拒否される方には声かけを工夫している。白癬菌等の感染対策として、清掃時は消毒している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が休みたい時は、生活に支障がない範囲で休息を取って頂いている。夜間は入居者のペースに合わせて支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作成し、入居者がどんな薬を飲んでいるのかをすぐに確認出来る様にしている。また主治医とも連携し、不必要な薬の処方が無い様にしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出などを行い、気分転換が出来る様に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者や御家族の希望があれば、外出や外泊が出来る様にしている。	市民センターのイベントに出かけることも多い。入居者の誕生日には、担当職員とドライブや外食を楽しめる機会を設けている。近隣の百円ショップで買い物を楽しんだり、今年の忘年会とクリスマス会は、2回に分けて外食に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については事務所でやっているが、必要な時にすぐに使用出来る様にしている。現在、個人的に所持している方はいないが、希望があれば対応出来る様にしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があれば取り次いでいる。また手紙に関してもやり取りを支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	間接照明を取り入れたり、月によってレイアウトを変えている。	3階建てビルの1階に2つユニットが開所し、入口にはウエルカムボードが掲示されている。玄関奥の共有空間は中庭が見渡せて明るく、隣の厨房からは食事を作るまな板の音が聞こえてくる。壁面は季節を感じる物や作品が飾られ、居室前の広い廊下に設置されたソファで食後寛ぐ入居者もある。空調や換気に配慮した居心地良い空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仕切りは無いが、居室やフロア等入居者が過ごしたい場所で生活出来る様に支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込めるようにしている。	居室の入口には名前が掲示され、中には配偶者の作品を掲示している居室もある。自宅から持参した机や椅子が置かれた居室もあり、担当職員が衣類の入れ替えやほころびなどに配慮し、居心地よい居室づくりを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かる様に張り紙をしている。		